「時に、社会的惨事を明らかにするには自然災害を要する」1

自然災害と人間の責任

ロバート・S・ホワイト



要旨

洪水、地震、火山噴火な どのいわゆる「自然災害」 は、毎年膨大な数の人々に 影響を与えている。けれど も、これらはまさに、地球 を、肥沃で居住可能するプ ロセスに他ならない。自然 の危険を大災害にするのは ほとんどいつも、人間の行 為、あるいは行為の欠如で ある。低所得国の人々、貧 しく辺境に押しやられた 人々は、最もひどく被害を 受け、大災害の後復興する 力をもっと持たない人々で ある。キリスト教的視点 は、人間の罪深さに起因す るこの世界の破綻的状況を 現実視し、同時に、もはや 大災害がなくなり、すべて の被造物が神の栄光を映す 新しい創造を望み見る。

24時間365日グローバルにつながった世界は、かつてないほど、災害を私たちの目の前に突きつけてくる。橋やビルの倒壊、火災建物の焼失とそれに伴う多くの住民の焼死、ダムの決壊、交通事故による年間約135万人の死者と2000万~5000万人の負傷者・障害者²。テロや戦争は戦闘員にも傍観者にも無差別に死傷やひどい苦痛を負わせ、明らかに人間が偶然にあるいは意図的に引き起こしたものもある。しかし、地震、火山噴火、

私たちが「自然」 災害と呼ぶ球きの地球を 間が繁栄可能を で居住プロー に他ならない 熱波、ハリケーン、洪水、山火事、 干ばつ、新型コロナウィルス(Covid 19)などの感染症のパンデミックな ど、自然現象から発生するように見 える災害もある。いわゆる「自然災 害」では、2010年から10年間で³、年 間平均5万人以上が死亡し、1億7500 万人が影響を受けた(2020年以降の 新型コロナウィルスによる数百万人 もの死者を除く)⁴。この論文で私は 主に、人間が現代の災害の多くを改

善または防止することに、人間関係と被造界への配慮の両方において世界的に失敗していることに焦点を当てる。悪と神義論に関するキリスト教的思考に関する膨大な文献を紐解くことが目的ではなく、むしろ災害における人間的要因に焦点を当てることが目的である 5 。

私は、科学的研究と聖書の記述の両方から証拠を得て、キリスト教的文脈で災害を論じる。聖書の物語の舞台となった中東の人々は、紛争、敵の侵略、戦争に加えて、飢饉、洪水、地震、

¹ M. A. Fletcher, 'Katrina pushes issues of race and poverty at Bush' の Jim Wallis の言葉を引用している。 Washington Post. September 12, 2005:A02. www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/09/11/AR2005091101131.html (accessed 5 January 2022).

^{- 2} 交通安全に関する世界現状報告書 2018. ジュネーブ: 世界保健機関; 2018, 404 頁。

³ 数値は、The International Disaster Database, Centre for Research on the Epidemiology of Disasters - CRED, www.emdat.be から。

⁴ 新型コロナウィルス(Covid-19)による死者数は 2021 年末までに 500 万人以上と報告されているが、おそらくその 2 倍か 4 倍である。Adam, D. (2022) The effort to count the pandemic's global death toll.を参照。Nature 601, 312-315 も参照。 5 災害をめぐる神学的な問題については、R. S. White (2014), Who is to Blame? Nature, Disasters and Acts of God (Oxford: Lion Hudson), 207 pp. ISBN 978-0-85721-4737. 悪に関するキリスト教の考え方の簡潔な要約として、H. A. G. Blocher (2006) Evil in New Dictionary of Christian Apologetics (eds. C. Campbell-Jack & G. J. McGrath), Inter-Varsity Press, Leicester pp. 249-252).およびその中の参考文献を参照。

火山の噴火などの災害を常に経験してきた。 そのため、聖書はキリスト教徒がそのような 災害をどのように理解し、どのように対応で きるかを示す豊かな資料を提供している。

本論では、洪水、火山噴火、地震など、私たちが「自然」災害と呼ぶものは、この地球を人間が繁栄できる肥沃で居住可能な惑星にするプロセスに他ならないということを伝えたい。これらの、通常は有益だがしばしば危険な自然現象は、人間の行為や不作為によって災害になりうる。実際、ある著者たちは、

「人々がいなければ何の災害もない」とまで 主張している⁶。それゆえ、私たちは、そうし

た災害を「自然災害」というよりむしろ「不自然災害」と呼んでも良い⁷。特に、科学的知識の発達した現代では、その影響のほとんどを回避または軽減することが可能だからである。

良い地球

聖書の天地創造の見方は、神 がこの世界をまさに、神の意図 したとおりに造ったということ

だ。聖書の第一章には6回、創造のそれぞれの日の終わりに、神が、造ったものを「良い」と宣言したことが記されている。そして、人間を造った後、「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」(創世記1:31)とある。この発端の章にある創造のすばらしさのメッセージはほとんど間違えようがない。

創世記で述べられている創造の「良さ」と は、目的にかなっていることを意味する。創 造された秩序は神の意図を成就しているか、成就し始めている®。しかし、神が造った世界は、人々がくつろいで何もせず、その雰囲気に浸っていられるようなある種の快楽公園をではなかるではなかを支配していまりではなかを支配していまり、手入れをしなければならなかったのものではなかった。神は、かに、はないのためのものではなかった。神は、神は、かだ。つまり、神は人間に、被造物を統治する重大な責任を負わせたのである。この点は、

「自然」災害の議論であまりにしばしば見落とされている。また、神は、物理的プロセスの秩序と一貫性を通して世界を理解する能力を人類に与えた。そうして得た知識を、より最近になって私たちは科学的方法と呼ぶものによって体系化してきたのである。

科学的には、最も身近でありふれた災害のひとつに洪水があり、 毎年多くの人命が奪われている。 しかし、洪水は山から浸食された

土壌を広い地域に運び、川の谷に堆積させ、その土は作物や家畜の育成に利用できる。何千年もの間、エジプトが繁栄したのは、ナイル川の毎年の氾濫のおかげだった。ナイル川が氾濫しないと、例えば1784年の場合には、人口の6分の1が死亡した⁹。

もう一つの自然災害である火山噴火は、地球の肥沃さを維持するために極めて重要である。火山は、生命維持に必要な大量のミネラ

Inter-Varsity Press: Leicester, 224 pp., ISBN: 978-1844748778

神は人間に、被造

物を統治する重大

な責任を負わせた

のである。この点

は、「自然」災害

の議論であまりに

しばしば見落とさ

れている。

⁶ P. O' Keefe, K. Westgate and B. Wisner (1976), Taking the naturalness out of natural disasters. *Nature* 260, 566-567.

⁷ あるキャンペーン団体が、「自然災害など存在しない」というメッセージを広めようとしているが、その理由は特に、それが自然災害は避けられないものだと誤解させるからだ。現実には、自然災害に対するコミュニティの脆弱性を軽減するためにできることはたくさんある。www.nonaturaldisasters.com (2021年6月21日アクセス)を参照。

⁸ J. A. Moo and R. S. White (2013) *Hope in an Age of Despair: The Gospel and the Future of Life on Earth,*

⁹ M. C-F. Volney, Travels through Syria and Egypt: in the years 1783, 1784, and 1785. Containing the present natural and political state of those countries, translated from French (London: printed for G. G. J. and J. Robinson, 1787)。Volneyは、「ナイル川はまたもや好ましい高さまで上昇せず、過大な死者数を出した。11月末には飢饉によりカイロではペストとほぼ同数の人々が犠牲になった」と報告している。

ルを持続的に地表に循環させる。ハワイなど り¹¹、しばし多くの火山島は、植物や動物の豊かな成長を しかし、過ぎえ、その結果、地球上で最も生物多様性に 損傷し、時富んだ地域となっている。また、火山は大気 くは、人間中の二酸化炭素の地質学的供給源になってい ものでありる。火山がなければ、地球はその歴史のほと ウイルス・んどの間凍結したままだっただろう¹⁰。そし には効用がて、人間を含めてほとんどの、いやおそらく ぐためにウェブベての生命は、存続できなかったであるう。しかし、火 自然災害で被害を受けや

すべての生命は、存続できなかったであろう。しかし、火山の噴火は、それに巻き込まれた人にとって爆発的に致命的になりうる。

動のサイクルの中で、山ができ、浸食され、溶けた岩石が噴出することで、生命が繁栄するための栄養分が安定的に供給される。つまり、地震は神の良き創造のもう一つの側面なのだ。

同じような議論は、私たちが神の良い創造に反していると片づけがちな他の自然災害にも当てはまる。例えば、自然に起こる山火事は、植物と動物を含めて一部の生態系にとってはその生育に絶対的に欠かせないものであ

り¹¹、しばしば人間にも益をもたらしている¹²。 しかし、過去20年間に米国で発生して家屋を 損傷し、時には死者も出した山火事の85%近 くは、人間の不注意や放火などの故意による ものであり、これらは明らかに善ではない¹³。 ウイルスでさえも、自然の場所にあるとき には効用がある。ある動物は、細菌感染を防 ぐためにウイルスを利用している。ヒトを含

む哺乳類におけるレトロウイルスの挿入は、胎盤の発達と機能に不可欠である¹⁴。

自然災害による被害

自然災害で被害を受けやすくなる重大な要素の一つは貧困である。高所得国や富裕層は、洪水や地震が起きやすいとされる地域に安全な家を建てたり、その後再建したりすることができるのが普通で、問題を回避することができるのが普通である。しかし、貧困国では、それが不可能ではないにせよ、より困難なものとなる。低所得国は、災害の相対的コストを最も多く負担している。災害に対する準備と対応能力が最も低い国では、国内総生産に対する人間の死

L. Mahood (2017), Human expansion of the fire niche,

すくなる重大な要素の一

つは貧困である。高所得

国や富裕層は、問題を回

避することができるのが

普通である。しかし、貧

困国では、それが不可能

ではないにせよ、より困

難なものとなる。最も収

入の低い国では、国内総

生産に対する人間の死亡

率と資産損失が最も高い

¹⁰ 温室効果ガス(二酸化炭素など)がない場合の平均 気温。大気中に二酸化炭素などの温室効果ガスが存在 しない場合の平均気温は、約 -6℃以下となる(John Houghton, *Global Warming: The Complete Briefing,* Cambridge: Cambridge University Press, 5th Edition, 2015), 396 pp.

¹¹ www.nationalgeographic.org/article/ ecological-benefits-fire/ (accessed 23 June 2021)など参照。
12 Juli G. Pausas & Jon E. Keeley (2019), Wildfires as an ecosystem service, *Frontiers in Ecology and the Environment*, 17(5), 289- 295, doi:10.1002/fee.2044
13 Jennifer K. Balch, Bethany A. Bradley, John T. Abatzoglou, R. Chelsea Nagy, Emily J. Fusco, Adam

Proceedings of the National Academy of Sciences 114, 2946-2951; doi: 10.1073/pnas.1617394114 ¹⁴ E. B. Chuong (2018), The placenta goes viral: Retroviruses control gene expression in pregnancy. PLoS Biol 16(10), e3000028. https://doi.org/10.1371/journal.pbio. 3000028 ¹⁵ IPCC (2012), Managing the Risks of Extreme Events and Disasters to Advance Climate Change Adaptation. A Special Report of Working Groups I and II of the

and Disasters to Advance Climate Change Adaptation A Special Report of Working Groups I and II of the Intergovernmental Panel on Climate Change [eds. C. B. Field, V. Barros, T. F. Stocker and others]. Cambridge University Press, 582 pp.

亡率と資産損失が高い16。

とはいえ、技術的に進んだ高所得国が低所 得国よりも災害への対処が優れているとは限 らない。世界の人口の大半がそうであるよう に、人々が都市で生活し、自然界から切り離 されている場合、危険の警告サインを認識で きないことがある。同様の災害を経験した前 の世代から受け継いできた、文化的に根付い た土着の知識は非常な価値がある17。例えば、 23万人以上の死者を出した2004年の津波では、 震源地に近いスマトラ沖のシメルー島や、タ イとミャンマーのスリン諸島に住むモーケン 族の人々は、1907年の地震以来年長者から口 伝えされてきた知識を利用して、津波を生き 延びた。彼らは、海が急に引いたとき、特に 地震の揺れが続いたときは、すぐに高台に逃 げればよいことを知っていたのである¹⁸。

地震について

地震を予知することはできないが、地震の 危険があるとされる地域の建物やインフラは、 地震に強くして、人々を守るように建設する ことができる。2011年の東日本大震災では、 想定を大きく上回るマグニチュード9.1の地 震が発生したにもかかわらず、建物が倒壊し なかったため、東京では死者がでなかった。 自動的に地震を感知する初期警報システムが 作動して、被害を及ぼす地表地震波が到達す る12-15秒前に振動を感知し、時速平均300キ 口で走行中の33本の新幹線を緊急停止させた

2,700億米ドルに上り(www.statista.com)、その40% は洪水による。また、 国連災害リスク軽減事務所 (UNDRR) (2019) 『災害に関する世界評価報告書』(Global Assessment Report on Disaster Risk Reduction, 425pp.が以下からダウンロードできる United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR) (2019), Global Assessment Report on Disaster Risk Reduction, 425pp., https://gar. unisdr.org; また、World Meteorological Organization (2021), WMO Atlas of Mortality and Economic Losses from Weather, Climate 及び Water Extremes (1970-2019), WMO Publication no. 1267.も参照。

17. I. Mercer, J. C. Gaillard and others (2012) Culture

16 2020年時点で、自然災害による経済損失は年間約

19。しかし、津波による浸水で約2万3千人が 死亡した。皮肉なことに、十分な警告があっ たにもかかわらず、津波防壁を信用しすぎて 高台に逃げようとしなかった、あるいは十分 に高く上がれなかったために命を落とした人 もいる。地震で死ぬ可能性は、主に自分の貧 困レベルや国の貧困レベルによって決まる。 例えば、2010年1月に低所得国のハイチで発 生したマグニチュード7の地震では、2011年 の東日本大震災の1000分の1のエネルギーに もかかわらず、23万人以上の死者が出た。死 因は、主に建物の倒壊による。ポルトープラ ンスにある通信会社デジセルが所有する13階 建ての板ガラス窓の超高層ビルが一枚の窓も 割れずに残った一方で、隣接する新築の4階 建てのトゥルゴ病院が多くの患者や医療従事 者の上に倒壊した事実が示すように、ハイチ の人々は耐震建築の方法を知らなかったわけ ではないのだ20。

火山

火山は通常、噴火の前に警告となる兆候を発するので、人々を避難させることができる。しかし、その警告が意図的に無視されることがあり、その場合、死傷者の発生に人為的な責任があることは間違いない。1902 年 5 月8日、マルティニークのモン・ペレが大噴火し、推定 26,000-36,000 人が死亡した²¹。1人を除いて全員が火山の麓からわずか 6km のマルティニーク最大の都市サンピエールで

Mercer and J. C. Gaillard (2012), Indigenous knowledge and disaster risk reduction, *Geography*, 97(1).

¹⁷ J. Mercer, J. C. Gaillard and others (2012) Culture and disaster risk reduction: Lessons and opportunities, *Environmental Hazards*.

^{11, 74-95,} doi: 10.1080/17477891.2011.609876; I. Kelmen, J.

¹⁸ B. G. McAdoo, L. Dengler, G. Prasetya & V. Titovd (2006), Smong: how an oral history saved thousands on Indonesia's Simeulue Island during the December 2004 and March 2005 tsunamis, *Earthquake Spectra*, vol. 22, No. S3, p. S661-S669.

¹⁹ How Japan's rail network survived the earthquake, *Railway Technology*, www.railwaytechnology.com/features/feature122751/ (2022年1月7日アクセス)。
²⁰ Reginald DesRoches and others (2011) Overview of the 2010 Haiti Earthquake, doi: 10.1193/1.3630129; see also R. P. Abbott and R. S. White (2019) *Narratives of Faith from the Haiti Earthquake: Religion, Natural Hazards and Disaster Response* (Routledge Focus on Religion), 136pp., ISBN: 978-0367134068
²¹ G. Thomas & M. Morgan-Witts, *The Day Their World Ended* (London: Souvenir Press, 1969).

死亡している。火山は2週間以上前から火山 灰と泥流を噴出し、多数の地震も発生してい た。水や食料の供給が滞り、市民が動揺し、 熱病が発生し、周辺の農村から人が押し寄せ、 町は混乱していた。しかし、総督は、人々が 11マイル(約18キロメートル)の道を歩いて、 近くの商業都市フォール・ド・フランスの安 全な場所に向かうのを、兵士を配備してまで 積極的に阻止した。

なぜ、総督は常識に反してサンピエールか らの避難を阻止しようとしたのだろうか。そ れは、数日後の5月11日に選挙があり、島の 大多数の黒人と混血の人々の代弁者である社 会主義新党が、白人と混血の保守派エリート から権力を奪おうとしていたからである。保 守派の有権者の多くはサンピ

エール島に住んでいた。フラ ンスの植民地大臣は、総督に 選挙が終わるまでサンピエー ルの有権者を町に留め置くよ うに命じたかもしれない²²。 避けられる悲劇であった。

洪水

1970年11月12日、サイク ロン・ボラが東パキスタンの

海岸を襲い、一晩で 50 万人が洪水のために 死亡した。このほかにも、河川の堤防が決壊 して1人または数人が死亡するような例は、 毎週数多く起こっている。高所得国はより効 果的に身を守ることができるため、洪水は低 所得国や貧しい人々に不釣り合いに大きな影 響を与える。1953年の高潮でイギリス東部と オランダの広い地域が浸水し、2,190人が死 亡したことを受け、イギリスとオランダは何 十億ドルもかけて海防を建設した。しかし、 バングラデシュの海抜1メートル以内に住む 3,000万人の人々は、デルタ地帯で防潮堤を 建設することは技術的に可能であったとして

ることは、高所得で技術的に進んだ国々を災 害が襲ったときにも明らかだ。2005年にハリ ケーン・カトリーナがニューオーリンズにも たらした洪水では、約1,500人が死亡した。 その多くが、体の弱い人々、高齢者、貧しい 人々、疎外された人々で、嵐が近づいても街 を離れることができなかった23。避難計画は 住民に、洪水の危険がある沿岸地域から自動 車で避難するよう求めていた。そうして、

80-90%の人々がうまく非難できた。しかし、

自家用車のない11万2千人の人々は立ち往生

も、その財力がないのだ。現在の海面上昇や

暴風雨の強さは、化石燃料の燃焼による地球

洪水が貧しい人々に最も深刻な影響を与え

規模の気候変動が主な原因である。

してしまった²⁴。ルイジアナ大学が50 以上の堤防の決壊の原因を調査した 報告書は、「NOFDS(ニューオーリン ズ洪水防御システム)の決壊は予測 可能、予知可能、かつ予防可能な大 惨事であった」と結論付けている。 さらに、「この大災害は『神』の行 為から生じたのではない。『人』の 行為から生じたものである」25と述べ ている。

は出来ない

わたしたちは、災害

発生に神も人間もか

かわっていないかの

ように、「自然があ

の災害を引き起こし

た」などと言うこと

パンデミック

新型コロナウィルスのパンデミックでは、 感染が人との接触によって、旅客機並みのス ピードで世界中に広がっていくことによった ことが否定できない。サーズCov-2ウイルス が、これに耐えられる宿主である野生動物の 集団から、悲惨な結果をもたらす人間の集団 に飛び火したことが、新型コロナウィルスの パンデミックの始まりと思われる。野生動物 と人間が接近しているのは、人間が動物をま すます狭い地域に押し込め、場合によっては 野生の食肉市場で、通常は接近することのな い種を一緒にしてしまった結果である26。興

²² S. Contour, Saint-Pierre, Martinique, Vol. 2, La Catastrophe et ses suites, Paris: Editions Caribéennes, 1989.

²³ T. Waltham (2005), The flooding of New Orleans, Geology Today, 21, 225-231.

²⁴ B. Wolshon (2006), Evacuation Planning and Engineering for Hurricane Katrina, The Bridge, 36, 27-

²⁵ Team Louisiana, *The Failure of the New Orleans* Levee System

during Hurricane Katrina, Baton Rouge: Louisiana Department of Transportation and Development, Appendix VI, 2006.

²⁶ R. Abbott and R. White (2020), What Good is God?

味深いことに、新型コロナウィルスのパンデミックでよりひどい影響を受けた国のいくつかは高所得で、人口が相互に密集し、こうした病気に対する経験がない国だった。それに対し、低所得でサーズ、マーズ、エボラのは染を以前に経験している国は新型コロナウに対して良好に対処して良好に対処して良好に対処して良好に対処してもなる。個人の自由を守ることを重視するでも、コミュニティの福利の重要性を強く意識する社会よりもはるかに悪い結果となったのである。

気候変動

気候変動はリスクを増幅させ、これまで稀だった極端な事象をより一般的にする。洪水や干ばつ、若者や老人に病気や死をもたらす極端な高温、氷河や氷冠の融解による海面上昇、沿岸地域や低地の島々での洪水の可能性の増加、気象パターンの変化や不安定化による作物収量の減少や不確実性、大気中の水蒸気量の増加による嵐やハリケーンの強度の上昇などを引き起こし、我々が直面している多くの自然災害を悪化させる。

に不釣り合いに苦しんでいるという、明らかな道徳的問題がある。気候変動のリスクを軽減する方法はたくさんある。炭化水素の燃焼を減らしてエネルギーを節約したり、効率的に使用したりするだけでなど無駄にしな質発する、大きをではないでではなり、ではなり、ととる、ととる、ととる、ととる、ととる、ととのではなり、という概念を維持するのの人間の力の及ぶ範囲での対応なのための人間の力の及ぶ範囲での対応なる。

神学的考察

聖書には、神が創造主であるだけでなく、 無生物や生物を含む全宇宙の維持者であると 示す記述が多い。私たちは、災害発生に神も 人間もかかわっていないかのように、「自然 があの災害を引き起こした」などと言うこと は出来ない28。自然現象は神の包括的な支配 のもとに起こるものであり、自然災害もまた、 人間の行為や不作為が間違いなく寄与してい るにもかかわらず、神の支配のもとにあるに ちがいない。現在では、科学的、技術的にか なりの理解が得られているにもかかわらず、 人間は被造物を適切に管理できないでいる。 そして、これは人間が、自分たちが引き起こ した、あるいは悪化させた災害に対して責任 を負っていることを意味する。「多く与えら れた者は、多く要求される」(ルカ12:48) とイエスが言ったとおりである。

キリスト教の著者の中には、人間がエデンの園で神に反逆した後、地球の物理的プロセスが大きく変化したと指摘し、「地震、火山、洪水、ハリケーンは罪がこの世に入る前には知られていなかった」と書いている人もいる。しかし、地質学上の観察から、洪水や津波、地震、火山の噴火は人間が存在するずっ

Crises, Faith, and Resilience (Oxford: Lion Hudson). ²⁷ AR6 Climate Change 2021: The Physical Science Basis, www.ipcc. ch/report/ar6/wg1/

²⁸ John Wesley (1755), リスボン大地震を深刻に受け 止め、Wesleyは「自然そのものは、神の作品あるいは 神が物理世界で働く方法以外の何物であろうか」と書

いた。同様の考えは、1千年以上も前に、ヒッポのアウグスティヌス(AD 354-430)によって、*De Genesi ad Litteram*に、「自然は神が作ったものである」と表わされている。

²⁹ . Blanchard, *Where was God on September 11?* Darlington: Evangelical Press, 2002, p. 17.

と以前からあったことが分かっている。実際、 すでに述べたように、この世界の豊かさと居 住可能な肥沃さは、このような自然現象に依 存しているのだ。

しかし、創世記の最初の章でアダムの罪と して描かれた人類の神への反逆 は、人類の歴史を通して、またそ れ以降のすべての人の中に続いて いると聖書の著者は主張してい る。その創造主である神と私たち との適切な関係の破綻は、私たち 自身と神の被造物との関係の破綻 をも招いた。そのため、食物を育 てることが苦行となり、労苦とな

った(創世記3:17-19)。そして、使徒パウ ロがローマの信徒への手紙8章20節で書いた ように、被造物の他の部分は「虚無に服して いる」のだ。人間の利己主義が、人間以外の 被造物が神に栄光を帰すという本来の役割を 果たすことを妨げたのだ。

聖書は、創世記1章28節にあるように、人 間が神のために神の代理として世界を支配す ることに満足しなかったことが悪なのだと主 張する。人間はむしろ、自分たちの小さな領 分であれ、より大きな野心であれ、自分たち の利己的な目的のために世界を支配しようと した。皮肉なことに、アダムとエバは、神と 被造物の両方と調和して生きるための、満た された人生の可能性をすでにすべて持ってい た。しかし、創世記の記述では、神と人類と 人間以外の被造物との間のすべての関係が、 罪によって影響を受けた。人間は神との直接 的な関係を失い、エデンの園の生活の正しさ と秩序を失った。他の人々との関係も損なわ れ、やがて殺人(創世記4:8)や他者への恐 怖が生まれ、男女の関係も損なわれた(創世 記3:16)。このように必要な知恵が失われた ことと、人間がしばしば被造物を自分の目的 のために利用する利己主義こそ、自然のプロ セスがしばしば災害を引き起こす根本原因な のだ。

私たちが被造物をどのように支配すべきか は、イエスが模範を示している。イエスは牧 者である王として、羊の群れを管理し、世話 をする羊飼いとして、自分の目的のためでは

なく、他の人々の善と父なる神の栄光のため に献身的な支配をした。人類にとって、この 支配は、贖われた人々がキリストとともに支 配する新しい創造を予見している(2テモテ 2:12、黙示録5:9-10、22:5)。だからこ

> そ、すべての被造物は現在「共に うめき、共に産みの苦しみを味わ っている」が、「神の子たちが現 れ」、「滅びへの隷属から解放さ れる」(ローマ8:19、21-22)の を切に待ち望ん**で**いるのである。 そのとき、新しい被造物は、その 完全な状態で神に栄光を帰すとい う創造の目的を果たすことができ

るようになるだろう。

創造主である神と

私たちとの適切な

関係の破綻は、私

たち自身と神の被

造物との関係の破

綻をも招いた

聖書に記されている多くの災害の中で、私 たちが災害をどのようにとらえればよいか示 す原則を導き出す3つのエピソードは紹介す るに値する。第一は、創世記に記されたエジ プトでの7年にわたる飢饉である。ヨセフは 兄たちの嫉妬から奴隷として売られてしまっ た。やがて、神から与えられた先見性と管理 能力によって、来るべき7年にわたる飢饉に 備えて穀物を備蓄するようになった。飢饉が 来ると周りの国々から多くの人々が食べ物を 求めてきた。その中には、ヨセフを恨み、殺 そうとした兄たちも含まれていた(創世記 37:18) 。ヨセフはやがて彼らに正体を明か したとき、これらの出来事はすべて神の摂理 と意図によるものであることを確認した。創 世記45章5-8節でヨセフは兄弟たちに「神は 命を守るために私をあなたの前に遣わされた」 と三度にわたって言い、最終的には創世記50 章20節で「あなたがたはわたしに悪をたくら みましたが(傍点著者)、神はそれを善に変 え、多くの民の命を救うために、今日のよう にしてくださったのです」と言っている。こ れは、人間の自由意志と、災害を含むすべて の物事における神の主権の両方を受け入れる という聖書の姿勢を端的に表している。また、 神がいかに、たとえ罪深く反抗的な人間であ っても、他人の悪行を用いてご自分の目的を 果たすことができるかを浮き彫りにして見せ ている。

第二の聖書の例はヨブである。彼は、神を 礼拝する正しい人であり、裕福だったが、相 次ぐ災難によって、生活、財産、家族、そし て健康までも失ってしまった。その中には、 暴風雨で家が倒壊して10人の子供が全員死亡 したような自然現象によるものもあれば、家 来を殺し家畜を盗んだ襲撃者によるものもあ った(ヨブ記1:13-19)。これは、神を崇拝 する正しい人であるヨブを、サタンが試みる ことを神が許したからであった。そのことは、 この本のプロローグで知ることができる。ヨ ブが苦難の中で望んでいたのは、神が自分自 身のなさり方を説明してくれることだった。 これは、災難に巻き込まれたほとんどの人が する、「主よ、なぜ私を」という非常に人間 的な反応だ。

神はヨブに答えた時、なぜ災害が起こるの かを説明する整然とした理由は告げなかった。 その代わりに、神は自分の創造と宇宙全体に 対する自らの主権と配慮について壮大な総括 をして見せた。宇宙そのものとその多数の星 を誕生させたこと(ヨブ38:31-33)から、 地球の物理的構造(ヨブ38:4-18)、天候 (38:22-30、34-38)、動物や鳥(38:39-39. 30)、さらには個々の生き物が食べるも のに対する配慮(ヨブ38:39-41)までもだ。 神は被造物の最も恐ろしくて飼いならせない 部分と、悪そのものに対しても主権を持つ。 ヨブはついに、神の目的は妨げられないこと、 そして神の知識と知恵はヨブが目指すものを はるかに超えていることを理解した。私たち への教訓は、どんなに悲惨な状況にあっても、 また災いの中にあっても、ヨブのように神の 誠実さと善良さにしがみつくことができる、 そしてそうすべきだということだ。そしてそ れは、災害の直接的な原因が人間の行為にあ る場合でも、いや、その場合には特にそうな のだ。

この物語は、神への嘆きは、苦しみや世界があるべき姿ではないという深い感覚に対する適切な反応であることを思い出させてくれる。嘆きは私たちを神への信頼に立ち戻らせ、逆説的に希望の感覚を与える³⁰。

³⁰ C. Ross (2021) Hope is tough: reflections in a time of COVID-19, *Practical Theology*, 14:1-2, 86-97, DOI:

聖書の第三の例として、イエスは、シロア ムの塔が倒れたとき、なぜ18人が死んだのか と問われて、災害についての質問に答えた。 特定の個人の罪深さと苦しみとの間に必然的 な関係はないという、ヨブ記に示されている ことを再び教えるために、イエスは災害を利 用した。イエスは修辞的な質問をした。「あ の十八人は、エルサレムに住んでいたほかの どの人々よりも、罪深い者だったと思うの か」(ルカ13:4) そして、こう自答した。 「決してそうではない」(ルカ13:5)。そ して、イエスはその特徴的な方法で、聴衆が 答えを求めている目先の質問を超えて、もっ と重要な真理、「あなたがたも悔い改めなけ れば、皆同じように滅びる」(ルカ13:5) を指摘したのである。イエスは、私たちが神 の憐れみを必要としている現実を私たちに思 い起こさせているのである。ピラトの命令に よるガリラヤ人の死について語られたとき、 イエスが全く同じコメントをしたことは印象 的だ(ルカ13:1-3)。

これらの例を通して、私たちは、たとえ 人々が神に反抗して行動しても、また人々が その行動によって他者と自分自身を傷つける 災害を引き起こしたとしても、神が被造物と 人々の両方に対して主権を有していることを 目の当たりにしている。むしろ、創造主であ る神と被造物、そして人々の間に正しい関係 が回復されるという、未来への真の希望を与 えるイエスがもたらす良い知らせが、最終的 な神の言葉なのだ。新しい創造では火山や地 震があっても、それは誰も傷つけず、ただ創 造主である神を賛美するために、すべての人 が楽しめる創造の一部であると考えることが できる。使徒パウロが「現在の苦しみは、将 来わたしたちに現されるはずの栄光に比べる と、取るに足りないとわたしは思います」 (ローマ8:18) と書いたのは、この新しい 創造を将来に展望しているからである。これ は、パウロが3回も難破し、飢えと渇きを知 り、しばしば食べる物もなく、川や海で危険 にさらされ(2コリント11章)、獄中で地震 を経験した(使徒16章)など、多くの自然災

10.1080/1756073X.2020.1845932

害を経験したことを考えると、印象的なコメントだ。

未来への希望

キリスト教の福音には、現在だけでなく、 イエスが戻ってきたときの新しい創造への希望が織り込まれている。このことは、災害の 問題に対して世俗の世界が提供できるものと は根本的に異なる視点を与えてくれる。世俗 の世界は、ただ首を振って、「次はもっとう まくやらなければならない」と言うだけであ る。それは遺族や苦しんでいる人々にとって、 あまり慰めにはならない。

イエスは、飢饉や食糧不足がもたらす現実的な苦しみを軽視しているわけではない(ルカ 12:22)。しかし、私たちが世界を支配し、あるいは自分たちの小さな領域を好き勝手に支配できると考えないように、神への依存の立ち帰らせるのだ。何千年にもわたる実際の経験から、私たちの罪深い性質では、公正で公平な方法での支配は行えないことが分かる。むしろキリスト者はこの世での生き方において、よりキリストのようになる努力をしなければならない。

クリスチャンの視点は、この世の崩壊とそこに生きる人々の罪深さの現実を見る一方で、この世に対する神の主権と新しい創造に向けた神の究極的な計画の真実も見ているのです。だからといって、私たちが今、物事を改善するために努力する必要がないということですよるりません。むしろその逆で、災害に対する対象的理解を深め、コミュニティが災害に対する回復力を築けるようにし、富と資源における不当な格差をなくすよう努力する方に向

かうものだ。次の災害で犠牲者を全く出さないようにすることはできないかもしれなが、災害の可能性と影響を減らすために、私たちとが現在理解している自然現象からできる、経会的、政治的なコミットメントが必要である。それにもがだれでも参与できることだろう。それは被造物に対する理解を他者のために生かし、被造物がイエスがもをしために生かし、被造物がイエスがまりに働くことなのだ。



(The Faraday Institute for Science and Religion) の名誉所長、Christians in Science の所長、the John Ray Initiative 副 所長、地質学会フェロー、全米地球物理学連 合フェロー、ケンブリッジ大学 St. Edmund カレッジフェローでもある。著書として、 Who is to Blame? Nature, Disasters and Acts of God (Lion, 2014); Narratives of Faith from the Haiti Earthquake: Religion, Natural Hazards and Disaster Response (Routledge, 2019, with Roger Abbott); and What Good is God? Crises, Faith, and Resilience (Lion, 2020, with Roger Abbott) などがある。

ファラデー論集(The Faraday Papers)

「ファラデー論集」は、教育と研究のための慈善団体 (www.faraday-institute.org)、ファラデー科学・宗教研究所 (Faraday Institute for Science and Religion)を出版者とする。「ファラデー論集」で表明された意見は各著者の意見であり、必ずしも本研究所の意見を代弁しているとは限らない。「ファラデー論集」は、科学と宗教の相互作用に関する幅広い論題に取り組んでいる。現在出版されている全「ファラデー論集」のリストは www.faraday.cam.ac.uk ('Resources')で閲覧可能であり、そこから、PDF ファイルで無料ダウンロード出来る。また、www.faraday.cam.ac.uk.のオンラインショップで、1 部でも、まとまった単位でも購入可能である。

2022年 10月. ©The Faraday Institute for Science and Religion.